

## 授業の考察④<小学校>「トラブルにならないような話し方を練習しよう」

### 考察の視点

支え合う人間関係を築くための支援の在り方として、ピア・メディエーションに関する活動プログラムの開発をしてきました。この活動プログラムの有効性について、小学校6時間の授業を、以下のⅠ、Ⅱの2点を視点に考察します。

#### 授業の考察の視点

- |                  |
|------------------|
| Ⅰ 本時のねらいを達成できたか  |
| Ⅱ 次時につながる内容であったか |

なお、考察のために抽出した児童の記述については、ワークシートと振り返りシートの記述を直接引用しています。

### Ⅰ 本時のねらいを達成できたかについての考察

○は成果、◇は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

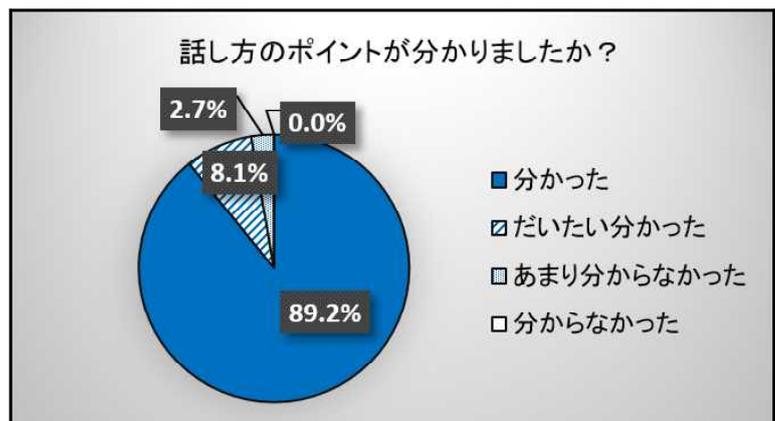
本時のねらいを達成できたかを、次の表1の「本時のねらいを達成することができたかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

表1 本時のねらいを達成することができたかを判断する目安

・ 振り返りシートの質問項目「話し方のポイントが分かりましたか」で、「分かった」「だいたい分かった」の合計が80%以上であること
・ 振り返りシートの質問項目「話し方のポイントに気を付けて練習できましたか」で、「できた」「だいたいできた」の合計が80%以上であること

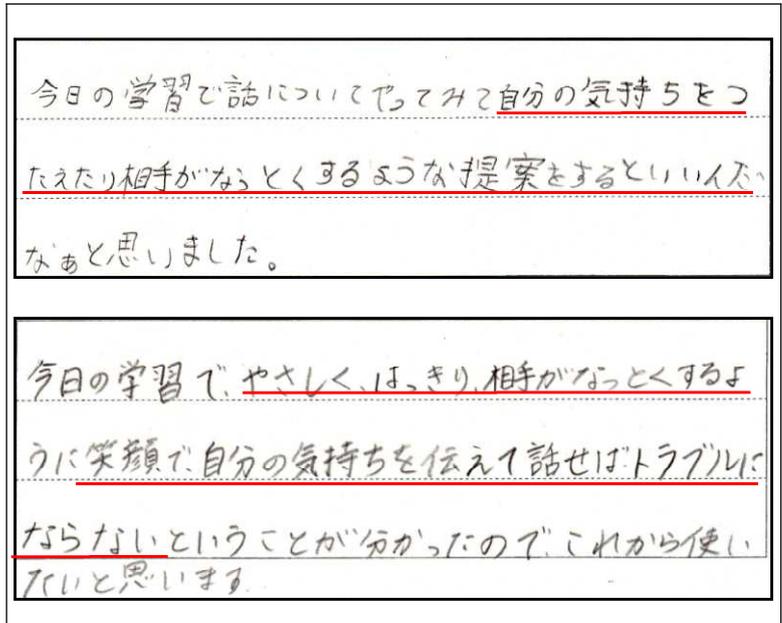
#### 1 話し方のポイントの理解について

○振り返りシートの「話し方のポイントが分かりましたか」の質問に対して「分かった」「だいたい分かった」と回答した児童の合計は97.3%で、3つの話し方のロールプレイを見て話し方のポイントを考えるという活動を通して、話し方のポイントについての理解を深めることができました（資料1）。



資料1 話し方のポイントの理解についてのアンケート結果(振り返りシートより)

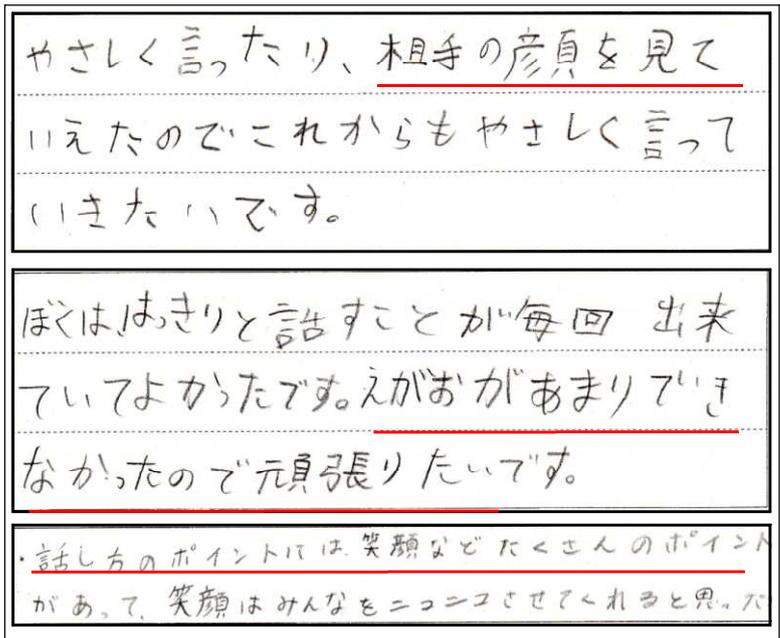
○児童が3つの話し方のロールプレイを見ることで、話し方のポイントを意識して練習に臨むことができました。また、話し方のポイント以外でも笑顔で自分の気持ちを伝えるように意識すると互いに良い気持ちになるということを実感できたと考えます（資料2）。



資料2 話し方のポイントの理解についての児童の感想（振り返りシートより）

○4つのポイント以外でも、「相手の顔を見て話す」のように既習のスキルを応用したり、「笑顔で話す」のように円滑なコミュニケーションの方法を意識したりした感想が見られました（資料3）。

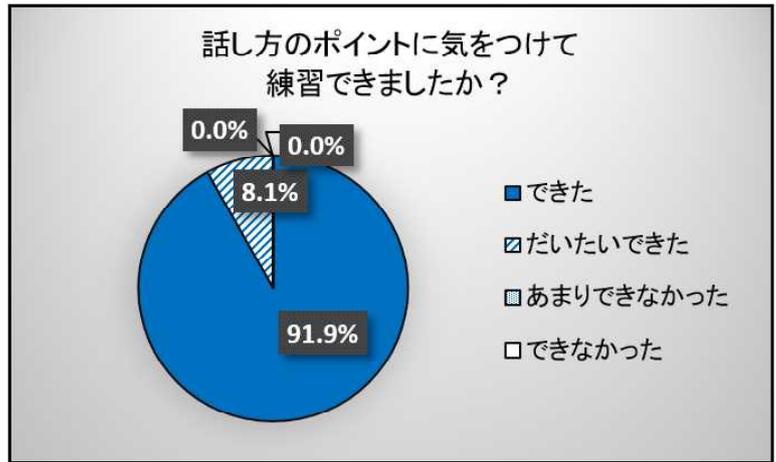
◇前時の「トラブルにならないような聴き方を練習しよう」と同様に、スキルを学ぶ学習であるため、「やさしく話す」「はっきりと話す」ことをポイントとして挙げるように修正しました。また、話し方のポイントを考えるときには、モデリングにおいて3通りの明確な違いを示すことが重要であると考え、展開案の中の「モデリングシナリオ」や「指導上の留意点」を修正しました。



資料3 ポイント以外の方法を意識した児童の記述（振り返りシートより）

2 話し方のポイントを意識した練習について

○振り返りシートの「話し方のポイントに気を付けて練習できましたか」の質問に対して「できた」「だいたいできた」と回答した児童の合計は100%で、全ての児童が話し方のポイントを意識しながら意欲的に取り組むことができました（資料4）。



資料4 話し方のポイントを意識した練習についてのアンケート結果(振り返りシートより)

○練習1では、モデリングで示したトラブルにならないような話し方のシナリオを使って練習しました。続いて、練習2では、同じ本を2人が同時に借りたいと言っている場面を用いて、話し方のポイントを使った台詞を自分で考える活動を取り入れました。児童は、練習1でのシナリオを参考に、空欄に言葉を入れることができました（資料5）。その活動を通して、話し方のポイントをより意識して練習することができたと考えます（資料6）。

A: この本、1さつしかないんだよね。  
 B: うん。  
 A: 【自分の気持ちを伝える】  
私、この本よんだことないから、先にかりたいいだけ  
 借りたい？

B: え～、ぼくが先にこの本借りたいな。  
 A: 【相手になつとくするような提案をする】  
じゃあ、先にかりていいから、その次に私に  
 かけてくれる？

B: うん、分かった。  
 A: ありがとう。

資料5 話し方のポイントを意識した練習についての児童の記述(ワークシートより)

今日、トラブルにならない話し方を練習してみて、いつも  
 自分が話している話し方と少しちがっていたりしたの  
 でこれから今日学習で習ったポイントなどに気を付けていきます。

資料6 話し方のポイントを意識した練習についての児童の感想(振り返りシートより)

以上のことから、児童はトラブルにならないような話し方についての理解を深めており、本時の授業が本時のねらいを達成する内容であったことが分かりました。

**Ⅱ 次時につながる内容であったかについての考察**

○は成果、◇は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

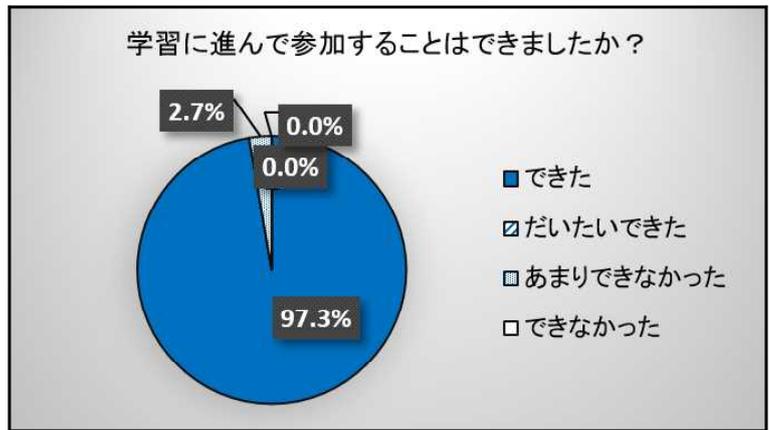
次時につながる内容であったかを、Ⅰの本時のねらいを達成できたかについての考察と併せて、次の表2の「次時につながる内容であったかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

表2 次時につながる内容であったかを判断する目安

・ 振り返りシートの質問項目「学習に進んで参加することができましたか」で、「できた」「だいたいできた」の合計が80%以上であること
・ 振り返りシートの質問項目「今日学習した内容をこれからの生活に生かしていきたいと思えますか」で、「思う」「少し思う」の合計が80%以上であること

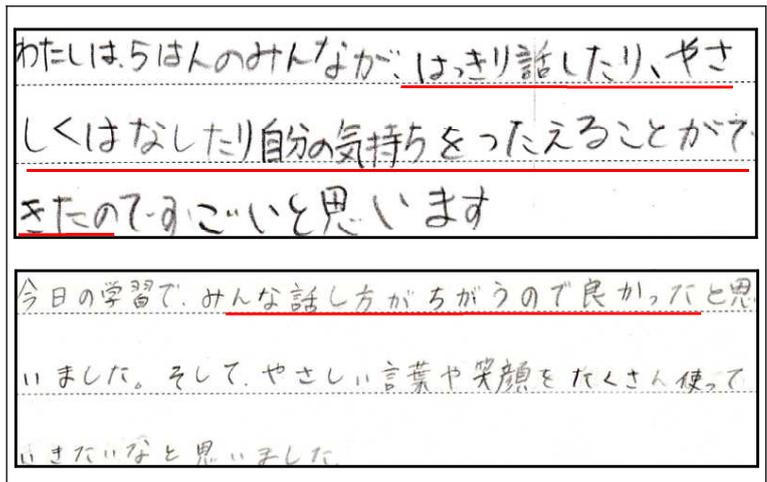
1 学習に進んで参加することができたかについて

○振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して「できた」「だいたいできた」と回答した児童の合計は97.3%で、ほとんどの児童が学習に対して意欲的に取り組んだことが分かりました（資料7）。



資料7 学習への参加状況についてのアンケート結果(振り返りシートより)

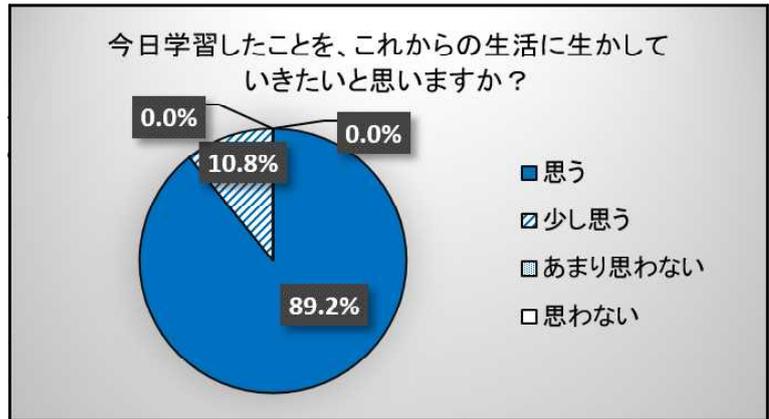
○グループ内で役割を交代して体験したことで、話し方のポイントを意識した話し方について客観的に捉えることができたと考えます（資料8）。



資料8 学習への参加状況についての児童の感想(振り返りシートより)

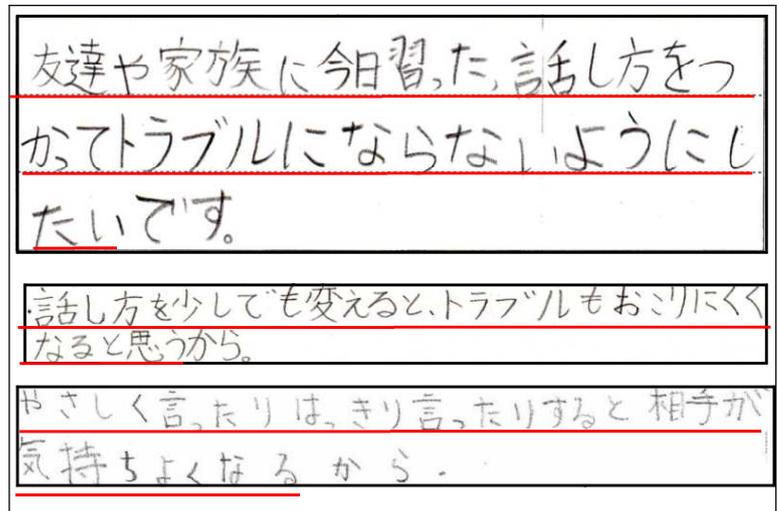
2 学習内容の今後の活用について

○振り返りシートの「今日学習した内容をこれからの生活に生かしていきたいと思いませんか」の質問に対して「思う」「少し思う」と回答した児童の合計は100%で、全ての児童が今日学習したことを生かしていきたいと思っていることが分かりました(資料9)。



資料9 学習内容の今後の活用についてのアンケート結果(振り返りシートより)

○話し方のポイントを意識した練習を通して、これから話し方のポイントを使っていきたいと感じていることが分かりました。また、話し方のポイントを使うと、周りの人と気持ちよく関わることができることを実感として捉えることができたと考えます(資料10)。



資料10 学習内容の今後の活用についての児童の感想(振り返りシートより)

以上のことから、本時の授業が本時のねらいを達成する内容であるとともに、児童が学習に参加したり学習内容を活用したりする意欲が見られ、次時の学習につながる内容であったことが分かりました。